

井奥まさきの市政ニュース

自宅 兵庫県高砂市荒井町新浜2-19-9 E-MAIL ioku3@gmail.com HP http://ioku3.sakura.ne.jp/
 TEL 079-444-2343 FAX 079-444-2418 2018年4月上旬号 通算120号

まちづくり プランBで行こう！高砂駅前開発優先、素早い渋滞解消策へ

調査5年、事業20年の25年以上の超長期事業
 完成まで渋滞、老朽化駅舎はそのまま
 総額約380億円の巨大事業でも効果は
 完成までに「仮線」が必要。高砂駅周辺は用地余裕なし
 現在の「沖浜平津線」は壊すことが前提



明石市駅前開発ビル

井奥の主張

- ・「調査」段階で連続立体交差（プランA）はあきらめ、現実的なプランBへ舵を切るべき
- ・25年以上先の空想的な事業より現実的な10年以内のまちづくりで活性化と人口増加を

10年以内に駅前ビル完成が可能（明石駅前事業変更から7年で完成）

渋滞解消対策は共同送迎バスなど数年以内にすばやく対応策を

総事業費は連続立体交差事業の半分以下

西友跡地の開発も含め、現実的なまちづくりで活性化・人口増加を

古い高砂駅、荒井駅も5年以内に改装を

安全な踏切など「すぐできる」工事を早期着手

プランA

連続立体交差事業
山電高砂～荒井付近

できない

から

計画倒れ（いつものパターン）

できるへ

現実的なまちづくり

プランB

高砂駅前開発・渋滞解消策優先へ

冬季オリンピックのカーリング競技で「プランB」という言葉を学びました。Aが無理と判断した場合、選手はすばやく次の選択肢に向かって努力します。高砂駅前開発計画づくりは平成31年度（2019）までに連続立体交差の「ある場合」「ない場合」の2案を並行して議論をすることになりました。

平成30年度（2018）の調査費だけで1000万円もかかります。先の見通しのたたない山陽電車の高砂駅から荒井駅付近の連続立体交差事業（プランA）は早急に断念し、現実的なプランBを進めるべきです。ちなみに明石駅前のビルは平成23年（2011）に現行計画に変更。国の補助金も得て7年後の平成29年（2017）完成です。

工楽邸など 膨れ上がる「観光」事業費 大丈夫？



改装される工楽邸（高砂町）

工楽邸などの整備事業費、管理事業費が「3年間で3億円」から膨れあがっています。まず工楽邸や駐車場の管理費として年間600万円が計上。他にイベント費や備品の整備にも500万円以上。

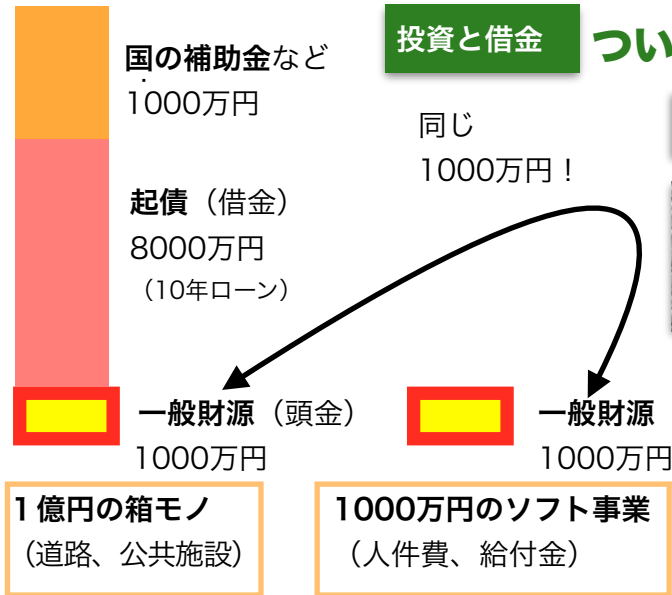
工楽邸の平成30年（2018年）6月のオープンに合わせる形です。他に別途取り上げる「北前船」関連予算で年間100万円以上とされています。この他に生石神社や竜山の整備費もあります。ベッドタウン高砂市の観光事業への投資としては過大になりつつあるのでは。

井奥まさき 活動アルバム



2月勉強会講師（長野）、国会議員会館で解説（下）(2/9) (上) (2/1)

ついに借金500億円時代 なぜ箱モノ優先？



井奥の解説

- ・国も「補助金」「有利な借金」で箱モノに誘導
- ・「教育・福祉」優先の理念をもたなければ、「市民ニーズ」より「つくること」優先に

左に二つの事業例をあげましたが、1億円の箱モノと1000万円のソフト事業に単年度でかかるお金はどちらも「1000万円」です。ソフト事業は単年度では終わりにませんので、10年も続ければ1億円かかります。「ならば、すぐに姿が見える見栄えのよい箱モノ事業を」という方向にどうしても誘導されてしまいます。実は左の例でいえば、借金の返済で箱モノでもその後10年間800万円を払い続けなければいけません。本当は負担から言うとほぼ同じなのですが、ソフト事業はすぐには効果が見えませんが行政はどうしても「後回し」「削減対象」にしてしまいます。それを防ぐには「教育・福祉」優先の理念が重要です。ところが高砂市では最近逆に「国・県の補助金がつく事業」という答弁が増加。それが市民、とりわけ子育て世代が本当に望んでいる事業なのか。私は改めてチェックと提言をしていきます。

中期財政計画によれば、ついに高砂市は平成33年度（2021）に借金残高500億円という史上最大の領域に突入します。4大事業（市庁舎建て替え、広域ゴミ処理施設、中学校給食センター、巨大ポンプ場）が集中するので仕方がない面もあります。しかし、4大事業以外にも3年間で3億円の工学家改修・周辺整備事業のような疑問のある事業もあります。

「なぜ学校の先生を増やしたり、福祉にお金を使ってもらえないの」ということをよく聞きます。実は国の制度による誘導があります。

高砂市のこれから実施する4大事業

仕方がない面もありますが、一層の「ムダ」削減を



新市役所（現在の位置で建て替え）

市庁舎建て替え 65億円
平成34年（2022）完全完成

中学校給食センター 約17億円
平成32年（2020）1月開始予

広域ゴミ処理施設 35億円
平成34年（2022）4月 本格稼働

巨大ポンプ場（鹿島排水機場） 69億円 平成34年（2022）完成

高砂市負担分

井奥は疑問

高砂市民まちづくり協議会 毎月第三土曜日14時～ユーアイ帆っとセンター

子育て日記

野球など「スポーツ観戦」にはまる息子

私は中高の部活が「将棋部」だったようにスポーツを実際にするのは苦手中の苦手です。子どもたちも剣道は続けたものの、マラソン大会でも着順は後ろの方、体育成績も並以下とスポーツはあまり得意ではないようです。

ところが近頃息子は野球観戦をはじめ「スポーツ観戦」にはまりだしました。最近はデータ放送やタブレットなどで選手データも気軽に見ることができます。YOUTUBEなどでは過去の名シーンも閲覧でき、すっかり「野球通」になりました。

実際にやってみたくなったのか、バッティングセンターにもせがまれて連れて行きましたが、難しさはわかったようです。



バッティングセンターの息子の勇姿

冬季オリンピックでもスケートやカーリングなどにはまり、さらに今度は「甲子園や東京ドームに行きたい」と言い出しています。「実際にスポーツせずに見るだけで面白いの？」とテニス部出身の妻はあきれて見えています。